

WFPによる水産缶詰供与の現地状況調査報告書  
(スリランカ)

2015年(H27)3月

日本水産缶詰輸出水産業組合

## 目 次

1 調査の目的	-----	1
2 日 程	-----	1
3 調査計画	-----	1
(1) 主要訪問先	-----	1
(2) 調査団メンバー	-----	1
(3) 調査スケジュール	-----	3
(4) 訪問先及び面談者	-----	4
4 調査結果の概要	-----	5
(1) 概 況	-----	5
(2) 小中学校における給食	-----	7
(3) 水産缶詰の利用状況	-----	9
(4) 缶詰の保管状況	-----	11
(5) いくつかの課題	-----	12
(6) その他	-----	12
5 詳細報告（主要訪問先ごとの報告）	-----	14
(1) WFPコロンボ事務所（2月9日）	-----	14
(2) ムライティブ 学校視察2ヶ所（2月11日）	-----	15
(3) ムライティブ県庁 県知事（2月11日）	-----	20
(4) キリノッチ 学校視察2ヶ所（2月12日）	-----	20
(5) 生徒の家庭を訪問（2月12日）	-----	24
(6) 地域教育事務所（2月12日）	-----	25
(7) 地域保健医師（2月12日）	-----	26
(8) コロンボ保管倉庫（政府の高床倉庫）（2月10日）	-----	27
(9) ムライティブ保管倉庫（低床倉庫）（2月11日）	-----	28
(10) キリノッチ保管倉庫（簡易倉庫）（2月11日）	-----	29
(11) JETROスリランカ事務所（2月9日）	-----	29
(別添資料)		
1. Nutritional Status of Pre - School Children in Sri Lanka		
(Department of Census and Statistics - Sri Lanka)		
2. スリランカの投資環境（ジェトロ コロンボ事務所）		

## 1 調査の目的

WFP 食糧援助に寄与しつつ被災地の復興を図る本事業の趣旨を踏まえ、今後の水産缶詰の WFP 供与事業の円滑実施に寄与するため、供与された水産缶詰のスリランカ国・現地における、取扱状況、利用状況等を調査する。

## 2 日程

2015 年（平成 27 年）2 月 8 日～15 日

## 3 調査計画

### (1) 主要訪問先

ア WFP スリランカ事務所（コロンボ）

イ 北部地域小中学校

①ムライティブ 2校

②キリノッチ 2校

ウ 地方行政機関

①ムライティブ県庁

②地方教育委員会

エ 日本大使館（大使表敬）

オ JETRO スリランカ事務所

### (2) 調査団メンバー

副理事長 高木安四郎（株）高木商店 代表取締役社長）

〃 加納洋二郎（相浦缶詰株 代表取締役社長）

監 事 田原 義久（田原缶詰株 代表取締役社長）

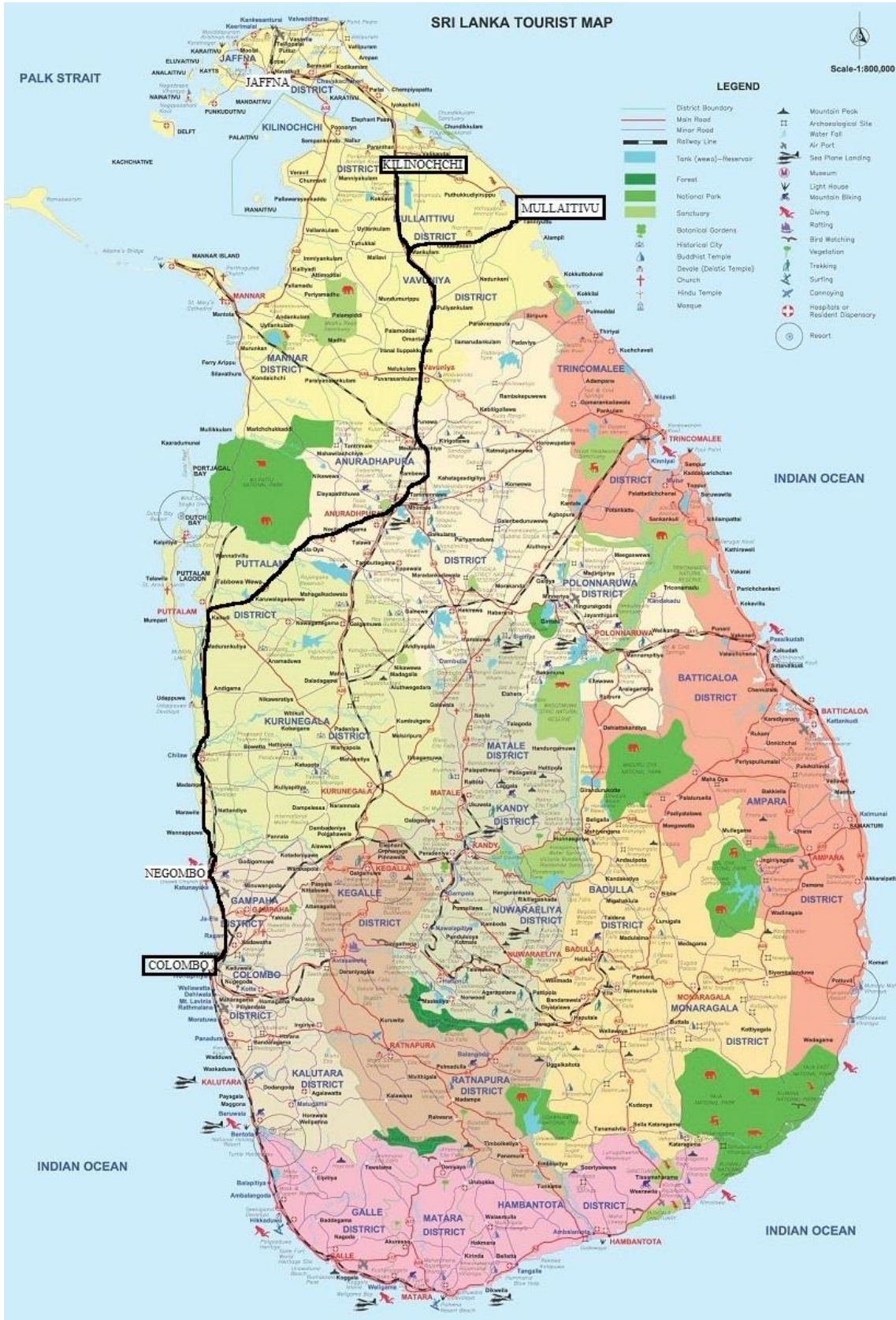
理 事 野田 一夫（八戸缶詰株 代表取締役社長）

専務理事 長島 徳雄（事務局；総括）

事務局 平松ますみ（事務局；輸出援助担当）

通 訳 田村 智子（KMC LANKA 代表）

計 7 名



(3) 調査スケジュール

月 日		時間	スケジュール	宿泊地
1	2/8 (日)	11:10	成田空港発 シンガポール航空/SQ0637	
		17:45	シンガポール着	
		23:05	シンガポール発 シンガポール航空/SQ0468	
2	2/9 (月)	0:15	コロンボ着	
		10:00	WFPコロンボ事務所 訪問	コロンボ
			スーパーマーケット (2店舗) 市場調査	Cinnamon Grand Colombo
		15:00	在スリランカ日本大使館 訪問	
	16:30	JETROコロンボ事務所 訪問		
3	2/10 (火)	09:00	コロンボ発	キリノッチ
			WFP保管倉庫(コロンボ) 視察	WFP Guest House
			WFPキリノッチ事務所 訪問	A9 spot
4	2/11 (水)		Mu/ Panikankulam School (ムライティブ) 訪問	
			Mu/Thanduvan GTMS School (ムライティブ)訪問	キリノッチ
			ムライティブ県庁 訪問	WFP Guest House
			WFP保管倉庫(ムライティブ) 視察	A9 spot
			WFP保管倉庫(キリノッチ) 視察	
5	2/12 (木)		KI/Vannerikulam school (キリノッチ) 訪問	
			バス車中にて現地 (キリノッチ) 医師と面会	
			KI/Selvanagar school (キリノッチ) 訪問	
			家庭訪問 母親と面会	アヌラーダプラ
			スリランカ教育省Thunukkai Zone 訪問	Palm Garden Village
			キリノッチ発 アヌラーダプラ着	
6	2/13 (金)		アヌラーダプラ発	コロンボ
			ニゴンボ水産市場 市場調査	
			コロンボ着	Cinnamon Grand Colombo
7	2/14 (土)		国立博物館 見学	
			スーパーマーケット (1店舗) 市場調査	
8	2/15 (日)	01:30	コロンボ発 シンガポール航空/SQ0469	
		07:55	シンガポール着	
		09:20	シンガポール発 シンガポール航空/SQ0012	
		17:05	成田空港着	

(4) 訪問先及び面談者

訪 問 先	面 談 者
<p><b>2/9 Colombo</b></p> <p><input type="checkbox"/> World Food Programme Colombo</p> <p><input type="checkbox"/> 在スリランカ日本国大使館</p> <p><input type="checkbox"/> 日本貿易振興機構(JETRO)コロンボ</p>	<p>Representative Country Director Mr. Ismail Omer</p> <p>WFP Programme Officer Mr. Musthafa Nifmath</p> <p>特命全権大使 粗 信 仁</p> <p>所長 小 濱 和 彦 黄 海 嘉</p>
<p><b>2/10 Colombo</b></p> <p><input type="checkbox"/> WFP 保管倉庫</p> <p><input type="checkbox"/> WFP Kilinochchi</p>	<p>Head of Area Office Mr. Hassan Abdelrazig Ahmed</p>
<p><b>2/11 Mullaitivu</b></p> <p><input type="checkbox"/> Mu/ Panikankulam School</p> <p><input type="checkbox"/> Mu/Thanduvan GTMS School</p> <p><input type="checkbox"/> Sri Lanka Administrative Service</p> <p><input type="checkbox"/> WFP 保管倉庫 (Mullaitivu)</p> <p><input type="checkbox"/> WFP 保管倉庫 (Kilinochchi)</p>	<p>District Secretary / Govt. Agent Mullaitivu Mr. Nogalingam Vethanayahan</p>
<p><b>2/12 Kilinochchi</b></p> <p><input type="checkbox"/> KI/Vannerikulam school</p> <p><input type="checkbox"/> KI/Selvanagar school</p> <p><input type="checkbox"/> バス車中にて</p> <p><input type="checkbox"/> Ministry of Education – Sri Lanka Thunukkai Zone</p>	<p>キリノッチ地域保健担当医師</p> <p>Zonal Director of Education Mrs. L. Malini Weniton</p>

## 4 調査結果の概要

### (1) 概況

① スリランカは多民族国家であって、全人口(2,030万人)の75%を占めるのがシンハラ人(仏教徒)である(表-1)。他方、訪問地スリランカ北部は、住民の多くがスリランカ・タミル人(ヒンドゥ教徒)であって、ムライティブでは86%、キリノッチでは97%にのぼっている。タミル国家分離運動を背景とした内戦は、2009年に終結したが、その傷跡はまだ随所に残っている(写真1及び2)。訪問地キリノッチは反政府武装組織の司令部が置かれた地、ムライティブは最後の戦場となった地であって、住民全員が難民となったといわれている。住民は内戦終結後から2012年にかけて戻ってきたが、産業が無く、道路の復旧工事などの日雇い労働で不安定な生活を送っている。

② スリランカ政府は、Ministry of Relief, Rehabilitation and reconciliation(救援・更生・和解省)を設置し、北部に対して援助と融和の政策を採っている(写真3)。戦火で荒廃した北部の復興はスリランカの大きな課題となっている。他方、次代を担うスリランカの子供達の栄養状態は、都市部と地方、とくに北部では大きな格差があると言われている(別添資料1)。日本からの援助物資である水産缶詰は、学校給食用として、良好に保管、学校・父兄の地域活動により支えられ、調理・供給されていた。子供たちの栄養状態を改善するため、不足する動物蛋白質を供給していく上で、水産缶詰を加えた給食の役割は極めて大きいと思料される。

表-1 スリランカの民族構成(2012年国勢調査)

民族(Ethnic groups)	人口(人)	比率(%)
シンハラ(Shinhalese)	15,173,820	74.6
スリランカ・タミル(Sri Lanka Tamil)	2,270,924	11.2
インド・タミル(Indian Tamil)	842,323	4.2
スリランカ・ムーア(Sri Lanka Moor)	1,869,820	9.2
バーガー(Burgher)	37,061	0.2
マレー(Malay)	40,189	0.2
その他	29,586	0.1
合計	20,263,723	100



(写真1) 破壊された倉庫事務所



(写真2) 被弾したトラック



(写真3) 救援・更生・和解省の食糧倉庫看板(コロンボ)



## (2) 小中学校における給食

### ア 概況

スリランカの教育制度は、小学校；1～5年生、前期中学校；6～9年生、後期中学校；10～11年生、高等学校；12～13年生の5・4・2・2制、義務教育は1～9年生となっている。

保健省では、都市部と地方の子供たちの栄養状況の差異、特に地方の深刻な栄養状況を報告している（別添資料1）。小学校生徒の体格は、日本の生徒よりも一回り小さく見える。キリノッチの地域保健医からは、北部地域の子供と妊婦の栄養不足の指摘があった。

ムライティブの小学校では、先生方から、朝食を取らずに登校するため、体力・意欲が無く、学校生活に支障が出ていたが、給食の支給によってこれを克服することができたと、成果を強調する発言があった。訪問したキリノッチの小学校では、朝食を摂れない生徒が、全生徒134人中75人という事例もあった。これらの生徒たちを考慮して、いずれの学校でも、午前9時頃に給食を出すよう努力している。地方教育委員会では、給食を、5年生までを優先しつつ、9年生まで支給していくことを目標としている。

### イ 給食の現場

調理は、親のボランティアにより行われる学校が多いが、母親たちも働く家庭が多い一部の学校では、卒業生の寄付金による母親による調理の有償化も行われている。調理用の薪（燃料）は父兄の協力による。

食材は、WFPから拠出された水産缶詰、米、豆、これに加えて、親の提供や学校で栽培する野菜を活用しており、その他、政府負担3～5ルピー/1人の予算を野菜用として手当している。水産缶詰は給食用食材の中で、唯一の動物蛋白源となっている。



(写真4) 調理場



(写真5) 順番を待つ生徒



(写真6) かまど・薪は父兄の協力



(写真7) 給食の様子・子供たちは魚が大好き



(写真 8) 子供達と

### (3) 水産缶詰の利用状況

各学校では、30 グラム/1 人・回を目安に缶詰の魚を材料として調理されている。メニューは、①野菜と魚の煮込み、②魚のカレー、③魚・野菜・米の混ぜ合わせが中心で、子供たちの人気は②③とのことであった（写真 9）。また、生徒たちからは、日本からの缶詰の抛出に感謝の発言があった（写真 10）。先生方の話では、缶詰の魚の入った給食の日は、子供たちの出席率が高いということであった。

多くの学校で、子供たちの栄養状態を改善するため、魚の量をもっと増やしたいとの声を聞いた。給食では、週 4 回の給食のうち、2～3 回魚の缶詰のサバを使用した料理を出しているが、魚を使う給食の回数の増加を希望していた。

また、関係機関においても、継続的な水産缶詰の抛出（WFP 事務所）及び水産缶詰の量的拡大（県庁）や、魚の給食日の回数の増（教育委員会）を期待、要望する発言があった。



(写真 9) 魚の入ったカレーごはん



(写真10) 4種のメニュー入り給食を提供してくれた



(写真11) ミッション・メンバーもスリランカ流で戴きました



(写真12) 感謝の発言をする少女



(写真 13) 空缶は箒に利用

#### (4) 缶詰の保管状況

コロンボの Ministry of Relief, Rehabilitation and Reconciliation (救援、社会復帰、和解の政府部局) の倉庫 (Food Stor) では、コンクリート床にカートンが直置きされていた。ダンボールを敷いているとの説明があり、高床式の倉庫であるので、錆への直接的な原因にはならないと思料されるが、缶への傷を誘発する恐れがあるため、またハンドリングのメリットを考慮すると、パレット類使用が望ましい。翌日以降視察した、ムライティブ及びキリノッチの現地倉庫 (低床式) では、パレット類 (スノコ等含) を使用して保管していた。

各倉庫とも、通風孔を設けているものの、倉庫内温度は昼間 35℃を超えると想定される。水産缶詰は、高温高圧化で加工・気密保存されているため、通常の食品にとっては、このような厳しい環境であっても、品質・衛生上 何ら問題はない。



写真 14) コロンボ倉庫



(写真 15) ムライティブ WFP 倉庫  
(パレット上に置いている)

## (5) いくつかの課題

### ① 水産缶詰についての情報提供

WFP関係者との懇談の中で、WFP職員から「缶汁は利用しても安全か、添加物は入っていないか？」という疑問が出された。調査団メンバーから、拠出している水産缶詰には、サバ、塩、水以外は使用されていないこと、入っている Oil は魚から出る Natural なものであって、DHA、EPA という有効成分を含んでいること、したがって、栄養摂取上は、液汁を含めて利用することが必要であることを説明した。このほか、製造過程では、日本では、鮮度のよい原料を使って水産缶詰製品を作っていること、魚を漁獲した直後から冷却されることなどを話し、製品の理解を得る良い機会となったが、水産缶詰製品に対する情報提供が不十分であることがわかった。

対策として、缶詰ラベルに「原材料名」及び「成分表示」することなどを検討したい。

### ② 缶切り

1カートンにつき3個提供している缶切りについて、現地では、使いにくいと利用されていないことが分かった。缶切りは、2014年にこれまでの使い捨て型のものから、丈夫なものに改善されたが、それでも現場では使用されず、包丁を用いて開缶していた。学校給食では一回に数個から十数個を開缶するため、効率を考慮した缶切りの供与が求められる。

### ③ 賞味期限

WFP事務所に見本として提供したサンマ水煮缶詰について、WFPサイドから「賞味期限が2015年2月となっていたので、昨日事務所で食べた」伺い、当方で確認したところ、当該缶詰は2012年9月に製造されたものであるが、ラベル印刷は当該年度の最も早い製造年月で印刷するため、ラベルと実際の缶詰の賞味期限に7ヶ月の差があることがわかった。各缶の上面または底面には製造日が刻印され、またラベルには製造日表示の説明があることから、ラベルの賞味期限を「製造日より3ヵ年」とし、商品の正確な賞味期限情報を提供することが必要ではないか。

## (6) その他

### ① 農業・漁業

キリノッチ県とムライティブ県では一次産業である農業・漁業が盛んである。内戦中、生産に必要な灌漑設備や農機具、漁具漁船が破壊・紛失されたが、内戦終結後は、難民の再定住が進み、生産体制も、政府やドナーの支援を受け徐々に整いつつある。農業はコメの生産が中心であり、豆や雑穀類の畑作も行われている。漁業は沿岸・沖合漁業が盛んである。港の整備や漁民の資金不足のため、大型船による遠洋漁業は発達していない。農水産物は国内消費に流通している。

スリランカの漁業は、2004年のインドネシア津波によって壊滅的な被害を受けたが、コロomboに近いネゴンボ漁港では、写真のような、沿岸漁業、沖合漁業が可能な漁船団を見ることができた。漁港市場の魚の取引や販売所では、アジ、サワラ、マナガツオ、ハタ、バラクーダ等が揚っていたが、氷を使用していないため、鮮度落ちが早い様であった。価格はアジ Rs400/kg、ハタ Rs750/kgとのことであった。



(写真16) コロンボの漁船団



(写真17) 同 沿岸漁船



(写真18) 市場

## 5 詳細報告

### (1) WFPコロンボ事務所（2月9日）

- ・1968年開設後、最も大きな支援を行っているのはカナダで、日本は2番目となる。カナダからの支援はファイナンスでもらっており、現地で食糧の調達、農業、振興や妊婦や幼児の援助に使用している。米、豆、油等を購入しているが、現地の耕作を進める効果を狙ったもの。魚缶詰は日本以外から拠出あるのかの質問に対して、日本からのみであるとの回答であった。
- ・日本の魚缶詰の支援は今後も継続を希望したい。北東部に900位の学校がありWFPからの魚缶詰を16万人の子供に提供、配布している。支援については新聞記事として取り上げられている。（写真19）



（写真19）水産缶詰の供与を報じたス国紙（中央；粗 在スリランカ特命全権大使）

- ・大統領の交代による影響はほとんどなし。給食は政府の栄養政策に基づいて実行しているが資金が足りない。
- ・コロンボの学校は7：30～13：30の授業で基本的には給食は無い。
- ・コロンボと北部では小学生の体格が違う。南のウバ州でも貧困が多いので体格はコロンボと比べて小さい。北部地域の学校では給食を出すことによって就学率を高める狙いもある。
- ・食糧の配給の効率化のため、コロンボ以外に倉庫を所有している。保管倉庫はコロンボ郊外（政府の倉庫）、ムライティブ（政府の倉庫）、キリノッチ（簡易倉庫）にある。
- ・給食では魚缶詰を一人1日当30gの摂取を目標としている。  
政府の施策で、Food for Work・・・定職のない貧困層のインフラ整備などの労働参加への対価として現金または食料を渡す。トリポーシャ（豆の粉末）等も含む。



- ・スリランカWFP事務所は国内に5か所あり、世界各国では79か所ある。バンコクのアジア総局とローマ本部と連絡を取り合っている。スタッフは14,000人。
- ・イスマイル氏は以前WFPガーナ事務所勤務時にも日本からの魚缶詰の支援継続を要請したことがあり、味の素からの援助物資で日本人社員とも接触があった。
- ・援助物資は、スリランカ国内法に基づき検査を行ってから各地へ配送している。



(写真 20)ミーティング

## (2) ムライティブ 学校視察2ヶ所 (2月11日)

### ① Mu/ Panikankulam School ; 小学校 (1年生~5年生)

先生4人 (校長含む) 生徒50人

- ・7:30生徒集合、お祈りをする。ヒンズー教徒が主体 (ヒンズー教徒46名、キリスト教徒4名)
- ・就学時間は、1~2年生 8:00~13:00、上級生 8:00~14:00  
10:00~10:30頃に給食
- ・50人の生徒の内7人が朝食を食べてこない、早めに給食を出さないと生徒が13:00までもたない。
- ・政府から野菜などは支給されているが栄養状態が良くないので魚の量をもっと増やしたい。
- ・給食の内、週2回は水産缶詰を使用したものを出しているが、もっと回数の増加を希望している。
- ・給食があるから子供たちの登校意欲が上がり、勉強の励みにもなる。金曜日は給食なし。
- ・魚缶詰は液汁も有効に使用している。開缶には包丁を使用していた。缶切りは使用されていなかった。



(写真 21) 缶切りの包丁

- ・ 全員徒歩通学にて内戦の影響で地区移転している為、通学時間がかかっている。  
給食は生徒の母親たちが交替制でボランティア活動している。
- ・ 親の仕事は日雇労働が主体で、仕事の機会が少なく農作業をするにも政府の保護政策による動物の影響が大きい。
- ・ 象や猿が出没するが内戦時代は皆、武器を所持していたため追い払うことができたが現在は武器の所持が禁止されたことで野放し状態であり、時々学校に侵入してくることもあるため教室の窓に格子を取り付けるなど安全面を強化している。  
校庭に滑り台、ブランコ等の遊具があったが、そのうちのシーソー1台が象に壊されていた。敷地は、4エーカー（約 5000 坪）あるが、予算がないため、荒れ放題で整備できないとのこと。



(写真 22) 先生からヒアリング



(写真 23) 調理室



(写真 24)



(写真 25)

-----  
□スリランカの教育育制度の概要（参考）

公立学校（国立、州立）の授業料は無償で制服は支給される。

小学校 1年生（5歳）～5年生（9歳）

前期中学校 6年生（10歳）～9年生（13歳）

後期中学校 10年生（14歳）～11年生（15歳）

高等学校 12年生（16歳）～13年生（17歳）

義務教育は9年生まで； 5－4－2－2制

11年生時に全国統一試験（Oレベル試験）を受験し、合格すると高等学校（2年）に進学できる。

高等教育2年間ののちAレベル試験を受け、合格すると大学に進める。

-----

② Mu/Thanduvan school；小中合同校（1年生～9年生）

生徒270名

- ・1940年代に開校、当初小学校のみの生徒25名で開校、経済未発達地域。徐々に生徒数が増加し現在は270名となっている。校長は1997年から勤務。
- ・内戦（1983～2009年の26年間）のため、多くの人々が避難していたが、2010年3月に先生8名、生徒72名が復帰し、同年11月にWFPから食糧支援が開始された。
- ・政府からの援助は生徒1人当たり2ルピーにて親たちの協力で、バナナなどの食用の植物を栽培して給食を開始した。給食係は生徒の母親たちが交代制でボランティア活動している。
- ・日本からの魚の缶詰を給食に使用しており、子供達から、「今日は魚が入っているの」と聞いてくるくらい楽しみにしている。270人中朝食を食べてこない子は25人。1週間に2回の魚缶詰を出して1回の給食に14缶を使用している。
- ・ヒンズー教徒が多いため金曜日は魚を出さない。普段の給食は9時ごろに出しているが今日は雨のために時間がずれている。
- ・日本の学区制があるかの質問にたいして、スリランカの公立学校は日本のように学区が決められていないので、生徒は、学校を選べるとの回答。



（写真 26）



(写真 27)



(写真 28)



(写真 29)

### (3) ムライティブ県庁 県知事 (2月11日)

- ・産業がない。70%が農業、30%水産業（漁業）であるが、遠隔地なので販路がない。
- ・県民がすべて難民となった。2009年内戦終結後2012年にやっと戻れた。  
何度も難民として村を捨てていたので農機具もない。学校給食だけにとどまらず、母子世帯、障害者なども支援が必要。
- ・魚缶詰の量を増やすことも必要、継続的に続けてもらいたい。
- ・子供や妊婦の栄養状態が全国レベルに比べ低い。



(写真 30)

### (4) 学校視察 2ヶ所 (2月12日)

#### ① KI/Vannerikulam school ; 小中高合同校 (1年生～11年生)

生徒 206 名

- ・教師 30 人は必要なところ、現在は 11 人。2 クラス掛け持ちしている先生がいる。  
仕切り（壁）が無い教室があり、電気もついていない。  
朝食を食べてこない子供は 40 人くらいとのこと。  
今年初めて O レベル試験を受験する生徒がいる。
- ・この学校では小中の 1～9 年生まで給食を出しているが本来は 11 年生迄出したい。
- ・魚缶詰は週に 3 回出しており、1 名あたり 30 g × 150 名分。  
明日金曜日には給食無。
- ・カートンに内包した缶切りが使いづらくて、自己調達品を利用しているが品質が良くないため、カートン毎ではなく 2ヶ程良いものが欲しい。
- ・生徒は白の制服（ユニフォーム）を着用している。  
1 着目は文部省から支給されるがそれ以降は自費で購入となる。
- ・給食係は前 2 校とは異なり病院等が遠い点や管理面の問題等も考慮してボランティア

アでは無理があるとして給食係を雇用している。給食係の賃金は2000ルピー／月。  
(参考) 教師は5000ルピー／月

- ・この原資は、実業家として成功した卒業生の寄付で賄っている。校内に歴代の功労者の写真が掲示してあるが、次代に引き継がれている。
- ・音楽室があったが楽器は何もなく、写真のような手作りの手風琴（写真 33）があるのみであった。



(写真 31)



(写真 32)



(写真 33) 手作りの手風琴



(写真 34)

② KI/Selvanagar school ; 小学校 (1年生~5年生)

134名 出席 118名 (病欠 16名) 教師 6名

- ・生徒 4名が初めて試験に合格して奨学金受給資格を獲得した。  
将来の夢を確認した処、弁護士、医者、技術者であった。キリスト教徒 48名。
- ・魚缶詰は子供たちに人気がある。魚缶詰を使わない給食のときは欠席する子がいる。
- ・給食に使用する野菜は価格の上下があり、高い時には買えない。魚缶詰は安定して利用できる。
- ・この学校では缶の液汁をカレーに使用している。
- ・給食は生徒の母親達が交替で作っているが都合が悪い時は他の人に協力してもらって交替料を払っている。
- ・煮炊きに使う薪も親が持ち寄っている。校庭で野菜を植えている。(茄子他)
- ・朝食を抜いてくる生徒が 75名位いるが夕食は取っている。
- ・月 1回母親達と対話会を開いており、毎回 60~70人ほど出席している。



(写真 35)





(写真 36)



(写真 37)



(写真 38)



(写真 39)

(5) 生徒の家庭を訪問 (2月12日)

Mrs. Arunananthan Susila (母親)

- ・ 校長先生の案内で近所の民家を訪問し、母親の話を聞いた。
- ・ 夫は内戦で爆死、6人の子供を持つが、上二人(長男、次男)は内戦後も行方不明、中二人(長女、次女)は結婚して別の町に住んでいる。現在は障害を持つ娘と末っ子の息子9歳との3人暮らし。
- ・ 働きに出られないので収入はなく、国からの補助 (Rs350/1月) があるだけ。
- ・ 村では165世帯のうち25世帯が未亡人となっている。
- ・ 朝食は食べられない。教会から援助(食料)があるときもある。息子が給食を残して家に持ち帰ってくることもある。
- ・ 学校給食は子供のために続けてほしい。他の支援としては、自分が家でできる仕事がほしい。



(写真 40) 生徒の母親



(写真 41) 母子の住まい

(6) 地域教育事務所 (2月12日)

Mrs. L. Malini Weniton

Zonal Director of Education

- ・ 61校 生徒合計 8100名 を管轄。うち、36校は小学校にて1年～5年生まで、給食を提供、残りは9年生まで提供している。



(写真 42) 教育委員会



(写真 43)

- ・ WFPからは米、豆、魚缶詰の支援を受けている。野菜などは政府から 3~5 ルピー受給している。調理と調理用の薪（燃料）は親の協力。
- ・ 金曜日以外は週 3 回魚の缶詰を出しており、1 回は野菜を出している。
- ・ 魚が取れない地域などにもっと魚缶詰を供給してもらえれば、魚の回数を増やしたい。
- ・ 給食があるため全体の 95%の生徒が登校して授業を受けにくる。
- ・ 殆どの親は日雇労働による安定しない低い所得の家庭が多い。
- ・ WFPの給食があるため 16:00 頃まで学習し優秀な成績を収め奨学金をもらえる生徒もいる。
- ・ 1 校当たりの通学範囲が広いため朝食をとらないで 5kmの道を徒歩で登校してくる生徒もおり、朝食をとらずに家を出ているので、9 時ごろには給食を行いたいという目標がある。
- ・ 政府計画の 24 ルピー支給よりも WFP 計画に期待が高い。
- ・ 10 校に 1 人のスーパーバイザーが担当している。
- ・ 給食用の野菜食材には、当地域は野菜の栽培が多いため、親が提供してくれているものと学校内での栽培しているものを使用している。
- ・ 特に貧しい地域は 2009 年以降他の地域からの移動がありもともとの住民はいないところもある。
- ・ BMI で子供の成長を確認している。
- ・ 給食メニューは 15 種類のカレーのレシピがあるというが、調理方法はなく、何を何 g に何の野菜かなどが書かれている。

#### (7) 地域保健医師（2 月 12 日）

- ・ ジャフナ出身、キリノッチを希望し現在に至る。

- ・キリノッチでは子供から妊婦まで、鉄分欠乏症が多い。生まれてから成長段階で欠乏症になるのではなく、妊娠中が大事である。
- ・WFPの給食プログラムは栄養面だけでなく、子供の学習、将来にかかわる大事なプログラムだと思う。
- ・都市部の大きな病院に行けば優秀な医師は多くいるが、地方に医師の数は少ない。



(写真 44) 右：保健医師

(8) コロンボ保管倉庫（政府の高床倉庫）（2月10日）

- ・保管期間は10か月以内（庫出しする）で、運送は10トントラック。
- ・現地からは、不足している、十分でないという声を聴く。
- ・Wカートンは運送中のダメージを避けるため必要。
- ・パレット類は使っていないかった。
- ・成分、異物、放射能は国内法に基づき実施している。



(写真 45) コロンボ倉庫



(写真 46) コロンボ倉庫

(9) ムライティブ保管倉庫（低床倉庫）（2月11日）

- ・コロンボの倉庫からムライティブの倉庫へ運ばれる。
- ・鳩が屋内に入るためハトのフンが缶詰の箱に落ちていた。
- ・パレット類を使用していた。



(写真 47) ムライティブ倉庫



(写真 48)

#### (10) キリノッチ保管倉庫（簡易倉庫）（2月11日）

- ・テントタイプ、低床式の倉庫だった。
- ・敷地内に内戦時の銃弾を受けたトラックや爆撃を受けた建物があった。
- ・パレット類を使用していた。
- ・配布は政府がグループを作り行っている。WFPはそれをモニタリングしている。  
どこに配布するかは各地域の医師の健康診断等の数字を参考にして決める。



(写真 49) キリノッチ倉庫

#### (11) JETROスリランカ事務所

JETRO スリランカ事務所において、日本企業の進出の状況、その可能性についてブリーフィングサービスを受けた。（別添資料2）

##### <補足事項>

(1) コロンボのWFP倉庫のみコンクリート床に直置きについては、高床式を考慮すると問題無いと思われるが、缶の損傷防止の観点から、パレット類使用を要望したい（他の現地倉庫（低床式）2ヶ所では、パレット類（スノコ等含）を使用していた）。

(2) 訪問先の各学校での、効率的な缶切りが欲しいという要望については、急ぎスリランカの現場で受け入れられる方法・器具を検討、現場実証により問題なきを確認のうえ、次回供出時に対応する方策が考えられる。更に、次の段階では、他地域（ラオス・カンボジア等）の状況等も把握し、問題があれば対応する方向を検討してはどうか。これについては、WFPなど関係機関の指導を得て進めることとしたい。

(3) 日本の魚缶詰について、添加物含有や、魚の品質、鮮度についての疑問があるな

ど、十分な情報提供がされていないことへの対応については、缶のラベルに原材料名、栄養成分表示又は「液汁には栄養があるので捨てずに使ってください」等の注意書きを付けることを検討。

また、WFP スリランカの皆さんがに対し、原料の漁獲や1次処理過程、製造工程等の映像等を提供するなどとおして、正しい品質情報を提供し、天然由来のもので安全であるという事を伝える必要があると思われる。同時に、各パッカーとしても引き続き品質面で水準の高い援助物資の拠出に努めていきたい。



余談・写真



写真 50) キリノチ WFP ゲストハウス



(写真 51)



(写真 52) WFPゲストハウスで自炊



写真 53) 北部の学校への道



(写真 54) 内戦時、最後の戦場(ムライティブ)